

鈴鹿市の将来の姿を考える

(質問) ①児童生徒数および学級数はどう推移するか。介護福祉施設の利用状況は②公共交通空白地域での実証実験にかかった経費は③コンパクトシティの考え方。学校の複合化について。

(答弁) ①児童生徒数は減少し学級数も小学校で6年後に51学級、中学校で12年後に36学級が減少の見込み。半数の介護保険事業所は利用の受入が可能で今後予防事業など充実を図る。②乗合ワゴン・タクシーの運行で約6,000万円。③コンパクトな市街地を形成し都市基盤の維持、再構築を目指す。学校の新設時などには放課後児童クラブなどとの複合化を検討する。



諸派（鈴 和）

田中 通 議員

国の「インフラ分野のDXアクションプラン」を踏まえた鈴鹿市土木行政のデジタル変革について

(質問) 国は行政手続のデジタル化など、3つの柱を提示している。国の方針に対する本市の取り組み、および今後の取り組みについて問う。

(答弁) 本市土木行政の取り組みとして現場作業の遠隔化・自動化・自律化への対応を重点項目としている。また情報共有システムASP活用工事の導入、ICT活用工事の運用などの建設DXを開始した。今後の取り組みとして建設現場での遠隔臨場導入に向け検討を行っている。

その他の質問 ○音楽文化の振興と公共空間等を活かした市民交流の創出 ○立体駐車場の危険要因の把握と安全性向上



鈴鹿南部地域の状況について

(質問) 清掃センター建設については、地域と行政で覚書が交わされており、覚書には現有地で建設はしないと明言化されている。地域のコンセンサスについて、覚書に関してどのように考えているのか。

(答弁) 現在の覚書については、契約書の一種として認識しており、天名地区清掃センター対策委員会と協議を図りながら、丁寧に対応していきたいと考えている。

その他の質問 ○農業政策



市民の声

市川 昇 議員

鈴鹿市の歴史について

(質問) 鈴鹿市は日本の古代黎明期から長期間にわたり伊勢国を中心地であったが①綺宮崎遺跡周辺の整備②伊勢国府跡の遺跡復元に関する市の認識③それを踏まえて貴重な歴史遺産のエリアと幹線道路整備を活用した市の将来への取り組みについてお聞きしたい。

(答弁) ①遺跡周辺にて当時の貴重な遺物が確認された場合などに保存目的調査を検討する。②伊勢国府跡の全容解明のため、発掘調査を長期にわたり継続する。③幹線道路の整備に併せて産業面や観光振興など多様な観点から今後も注視していく。



新緑風会

山中 智博 議員

学校給食の持続可能性について

(質問) 学校給食は教育・福祉・産業・物流が交わる公共インフラである。①本市に最適な方式、②主食（米飯）の残食状況、③関連課題を体系的に整理し、全体を見渡す「学校給食基本計画」の策定が必要ではないか。

(答弁) ①児童生徒数の減少と給食センターの許容量を踏まえ、自校調理校数を最適化し調理の効率性を高める必要がある。②中学校10校の9月の残食は全校平均で約15%。③安定的な給食の提供には多岐にわたる課題を包括的に検討する必要がある。中長期的な計画の必要性を他市も参考に検討する。



各委員会での主な議案審査状況および一般質問の記事に掲載しているQRコードをスマートフォンで読み取っていただくと、動画をご覧いただけます。



※動画視聴の際は、料金プランなどを確認し、思いがけず高額な請求を受けることにならないようご注意ください。